

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

俳句

入選



加茂都紀女先生

ちゃんちゃんこ話のはずむ爺と婆
令和の世恙なく生き柿をむく

清原台1丁目 須藤典子
細谷町 平野フミ子

見上げれば夜ごと静かに光りゐる
月の矜持を持ちたしわれも

清原台1丁目 三木紋子

かくまでも白きをしらず白鷺の
ゆうゆうとして大空に舞ふ

さつき3丁目 和田悦子

早々に届くのしもち母の文字

八幡台 羽場 京子

特選

●特選の選評 米寿を過ぎた今も現役主婦の作者の母。年末の忙しさの合間に餅を送ってくれた母への感謝と尊敬の気持ちからこの句が生まれた。作者の優しさが感じられ、私もこんな親子でありたいと願つた。

短歌

入選



藤本都先生

押し並べて値上げの品の店内に
今宵のメニューの思案に余る
彼岸まで鳴いて良いかと夏の蟬
少し鳴かせろと秋の興梠

清原台5丁目 北市 邦子

見上げれば夜ごと静かに光りゐる
月の矜持を持ちたしわれも

清原台1丁目 三木紋子

かくまでも白きをしらず白鷺の
ゆうゆうとして大空に舞ふ

対局の後の感想戦に見る
素の青年の穏やかな笑み

緑2丁目 岩田豊子

特選

●特選の選評 藤井聰太さん（将棋棋士・六冠）だろうか。淡々と軽快に指していくようにも、思考している場面ももちろん見受けられる。だが、決着がついた後の感想戦では普通の青年の顔に戻る。それがうれしいと作者は親のように見守る。誰がとも、どこでともないけれど、それで良い。

川柳

入選



佐藤隆久先生

ソプラノの美声ドレスに溶けてゆく
遺影用この皺イヤと先のばす
目に映える母国カラーの安青錦

城東1丁目 綱川光江

西刑部町 佐藤栄子
築瀬町 中島栄美子

八十半ばありがたきこと賞二つ

元今泉1丁目 池田篤信

ふる里の思い出を踏む霜柱

中岡本町 竹内竹ノ花

特選

●特選の選評 近年、土の道はアスファルトで舗装され霜柱を踏む機会は少ない。赤いほどで白い息を吐きながら、霜柱を音を立てて踏んで通学したことが懐かしく思い出される。足の裏が覚えている感触がよみがえる。

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句（首）以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品（漢字にはふりがなも）・作品への思い。
- 毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540市役所広報広聴課（632）2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877



▲市HP

住所・氏名・壇名	ふりがな
宇都宮市役所 広報広聴課	
〒320-8540	

表

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い
作品への思い